

平成15年 2月28日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長  
西田良一高品質なテレビ会議システムを利用した遠隔授業  
の実施について

この度、大学院教育学研究科に新たに設置される、インターネットを使った高品質なテレビ会議システムを活用した遠隔授業を下記のとおり実施しますのでお知らせいたします。

## 記

対象校 広島大学附属高等学校(広島市南区翠町1-1-1)  
対象:1年生 化学選択者 70名

日時 平成15年3月3日(月)14時20分~16時10分

授業題目 環境問題と化学 -暮らしの中の資源・エネルギー問題を考える-

授業者 広島大学大学院教育学研究科 教授 田中 春彦

実施会場 ◆広島大学(東広島キャンパス)  
教育学部第3・4会議室(出講のみです)  
◆附属高等学校  
情報館3階 多機能情報処理教室

【お問い合わせ先】  
砂原 徹 教諭 研究部長 電話(082)251-9867  
内海 良一 教諭 電話(082)251-9646

※ [授業のレジュメ](#)は別紙のとおりですので、よろしくお願いたします。

【お問い合わせ先】  
広島大学大学院教育学研究科  
教授 田中 春彦  
TEL:(0824)24-7092  
(ダイヤルイン)

[発信枚数;A4版 2枚(本票含む)]

## 環境問題と化学 ―暮らしの中の資源・エネルギー問題を考える―

広島大学 大学院教育学研究科  
田中春彦

### 1. はじめに

近年、世界的な人口増加、産業の発展、生活水準の向上などにより資源・エネルギーの消費量が飛躍的に増加し、環境汚染は地域にとどまらず地球規模で進行している。こうした環境汚染の問題は、環境保全への配慮の欠如や環境保全対策の優先順位の低さなどに起因している。その解決法の一つは、いわゆる「持続可能な社会(環境)」の実現を目指すことである。そのためには、以下のような条件が必要である。

- (1) 環境汚染防止技術の開発と設備投資・人材の育成
- (2) 政府や国際機関などによる規制強化・国際協力
- (3) 社会における環境保全の必要性の認識・意識改革: 環境教育の重要性

### 2. 環境教育の目的・意義<sup>1)</sup>

- \* 環境問題の理論的認識から参加・実践へ
- \* 「環境リテラシー(Environmental Literacy)」の育成
- \* 「持続可能な社会(環境)」を目指した教育の普及

### 3. 地球環境問題の特徴

地球規模での環境破壊は、広域的で複雑な因果関係を持っており、しかも不可逆的に徐々に進行するため原因発生の時代よりも後の世代に深刻な影響が現れやすい。また、環境問題の多くは化学物質(廃棄物)の環境への排出に起因している。

### 4. 省資源・省エネルギーの必要性

- \* 4R(3R)の実践: Reduce, Recover, Reuse, Recycle<sup>2)</sup>

- (1) アルミニウム・鉄の利用とリサイクル: アルミ缶・スチール缶のリサイクル<sup>3)</sup>
- (2) 化学カイロの実験とその廃棄物の有効利用<sup>4)</sup>
- (3) マンガン化合物の回収とリサイクル: 触媒としての有効利用<sup>5)</sup>

### 5. 参考文献

- (1) 文部省、環境教育指導資料(中学校・高等学校編)、大蔵省印刷局(1991)
- (2) 田中春彦編著、環境教育重要用語300の基礎知識、明治図書(2000)
- (3) 田中春彦、環境と人にやさしい化学(改訂版)、培風館(2003)
- (4) 鈴木康通、広島大学大学院教育学研究科修士論文(2003)
- (5) 田中春彦、第17回国際化学教育会議会議録、2002年8月6日-10日、北京、p.61